

JKYB 健康教育ワークショップ東海 2014 報告

JKYB 健康教育ワークショップ東海 2014 が、10月25日、26日に「ウィルあいち」で開催され、31名が初参加者コースに、14名が2回目以上コースに参加しました。

今回は初の試みとして、2日目の最後にJKYBコーディネーターのスタッフによる「ライフスキル教育を実践するに当たって一二日間のワークショップを振り返ろうー」を企画し、参加者全員で学びの交流を図りました。JKYB東海支部ならではの温かい雰囲気ワークショップとなりました。

初日 10:00~12:45 (セミナールーム5：初参加者コース) 講師：川畑徹朗

「ライフスキル教育の理論的基礎」

セルフエスティームについて二つの柱「自己価値(尊重)感」、自己有能感」やセルフエスティームを構成する三つの要素についての講義があり理解を深めることができました。

初回で必ず学ぶ「絆の感覚の形成」の一つである「秘密の友だち」について説明を受け、実際に取り組みました。

また、ライフスキル教育を現場で実際に取り組むにあたり①ねらいがしっかり頭に入っている②先生自身が軌道を変えること③その場に立ったら、目の前の反応をよく見て子どもにあわせて行うこと等の指導を受けました。「初めからできる人はいない」の先生の一言が、ライフスキル教育を学ぶ参加者の勇気づけとなりました。

最後に「青少年の六つの危険行動について」講義が行われ、「子どもの喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけは？」についてワークを行い参加者同士の良い学び合いとなりました。(文責：齋藤)

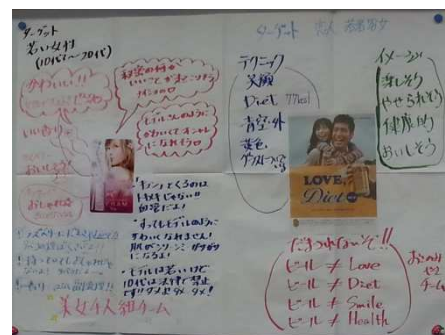


初日 10:00~12:45 (セミナールーム3：2回目以上コース) 講師：近森けいこ

「喫煙防止プログラムNICEⅡの理論と実際及び飲酒、薬物乱用防止教育への発展」

初めに「喫煙防止教育に取り組む意義」について学び、次に「健康になるために大切にしていること」を短冊に書き、同じような内容の者同士6人でグループを作りました。その後、「前の人に付け足した自己紹介」でお互いの理解を深めた。そして、中高生の喫煙・飲酒に関する行動科学の講義を受け、このプログラムを教科で取り扱う際のポイントについて学習しました。

後半は、このプログラムで使用するワークシートの紹介と活用の仕方についての説明を受けてから、グループごとに各自が持ち寄ったタバコと酒についての広告分析を中心にワークを進めた。各グループで一番インパクトのあるタバコと酒についての広告を1点ずつ選び、「広告の秘密を探ろうー1・2」のワークシートを使用して、ターゲット、広告のイメージ、使われている工夫を分析した後、その反証をして模造紙にまとめ、グループごとに発表しました。(文責：本若)



初日 13:45~16:45 (セミナールーム5:選択コース) 講師:川畑徹朗・李 美錦

「ライフスキルを育む性教育プログラム「思春期の心と体」 一個人的スキルの形成一

「見つめてみよう!思春期の心」という活動では、「親子の関係」「仲間との関係」「興味・関心」に対して、思春期の時期にはどのような変化が起こるか、グループで一つのテーマを選択し、ブレインストーミングで意見を出し合い発表しました。「興味・関心」を選んだグループからは、「自分への関心、性への関心、対人関係などが変化する」という意見が出されました。



次に、性に関する情報源については、「先輩や友人」「広告や雑誌」「テレビ」などの情報源に対してどの程度信頼がおけるか、「情報源の信頼度評価シート」を基にして、それぞれのメリット、デメリットを考えて評価しました。さらに、グループで2つの情報に絞り、それらの情報源は、「情報源信頼度計」のどの位置に評価されるか、話し合い、評価理由を発表しました。同じ情報源でも違ふとらえ方があり、グループワークをすることにより、様々なメリット・デメリットに自ら気付くことができました。

最後に、将来の目標を達成するために、「10年後の私」の進め方について学びました。夢や目標を実現するためには、思春期から性を含めた危険行動の回避や、ライフスキルを身に付けることの必要性を、ワークシートを活用して、子どもに気付かせることが可能であることが分かりました。(文責:山口)

初日 13:45~16:45 (セミナールーム3:選択コース) 講師:武井典子

「新しい歯と口の健康教育プログラムー意志決定スキルを適用した「噛むって」ー

現在の社会状況と学校(歯科)保健を取り巻く環境の変化について確認した後、歯と口の健康行動に関連する項目や健康教育プログラムについて学習しました。その後、グループに分かれ、ゲームでチーム力を高めてから活動に入りました。まず、「意志決定スキルを子どもたちに分かりやすくどのように説明するか」を考え、「子どもたちがよくかんで食べるには」などのブレインストーミングをした後、結果を分類しグループで決めたことを3つ選択し、課題を完成させました。



個人の振り返りも行い、実際に現場で実施するときのポイントも押さえられました。また、一人一人の意見を発表する場面も多くみられ、アットホームで充実した研修となりました。(文責:岩田)

第2日 9:30~12:30 (初参加者コース) 講師:川畑徹朗

「セルフエスティーム形成教育の理論と実際」

3人グループを作ったあと活動シート「似たもの3人」を使ってお互いの共通点と個性的な点を認め合うことの意義について体験しました。次に薬物乱用防止のDVD「未来があるから!」を視聴し、薬物乱用者が抱える本質的な問題は、セルフエスティームや対人関係能力が低いことが起因していることを確認しました。そこで、ライフスキルのうちセルフエスティーム形成のスキルの重要性について説明を受けた後、活動シート「わたし」を使って自己イメージを記入し、それを元にコラージュ作成の体験をしました。「新たな自分」を発見できた等多くの感想が出されました。(文責:山崎)

第2日目 9:30~12:30 (セミナールーム6: 2回目以上コース) 講師: 李 美錦

「ライフスキルを育む性教育プログラム 思春期の心と体」～対人関係スキルの形成～

はじめに、青少年の性に関する行動の実態やその関連要因から、ライフスキル形成を基盤とする性教育の必要性を学びました。その後、「ライフスキルを育む思春期の心と体」授業事例集から二つの授業についての体験学習を行いました。

まず、中学1年「より良い人間関係を築く」から、「人間関係状況カード」に書かれた状況について各自で評定を行い、そのカードを使ってボードゲームを行いました。そして、好ましくない人間関係の状況を改善するためには、自己主張的コミュニケーションスキルが大切であることを確認することができました。



次に、「お互いを高めあう男女交際」から、「中学3年生が性交をすることによって起こりうる結果」をブレインストーミングし、模造紙にまとめて発表しました。お互いを高め合う男女交際には意志決定スキルを適用して、よく考えて実行することが大切であることを確認することができました。(文責: 坂井)

2日目 13:30~14:20 (セミナールーム5) 指導講評: 川畑 徹朗

実践発表「小学生の生きる力と歯と口の健康習慣との関連」

(公財)ライオン歯科衛生研究所 名古屋グループ チーフ歯科衛生士 湯之上 志保

2011年度には、中学生の食・生活習慣の実態の把握とライフスキルとの関連について確認を行いました。その結果から、歯と口の健康、特に、歯肉炎の指標を示す「PMA」と食・生活習慣の複数の項目との間に関連性が認められ、それとともに「歯肉炎の予防」を題材に生徒のライフスキルを高める健康教育プログラムの必要性が示唆されました。

＜2014年度～2015年度の計画＞

そこで2014年度から、食・生活習慣が乱れるステージ前で、歯肉炎の罹患率が高くなる、小学高学年に焦点を当て、「ライフスキル形成を基礎とする歯科保健教育プログラム」の開発をし、その有用性の検証が進められています。

2014年	4月	: 歯科健診・PMA調査
2014年	5月	: 第1回質問紙調査実施
2014年	6月	
～2015年	1月	: 歯科保健教育プログラムの実施(4回)
2015年	2月	: 第2回質問紙調査実施
2015年	4月	: 歯科健診・PMA調査
2015年	6月	
～2016年	1月	: 歯科保健教育プログラムの実施(3~4回)
2016年	2月	: 第3回質問紙調査実施

実践者からは、研究の目的、方法等に加え、実践プログラムの一部が紹介されました。9月に行ったプログラム

「おやつ選び方と食べ方について」は、おやつ選び方や歯によいおやつが分かり、歯によいおやつと、お口の手入れ方法に関しての目標設定・意志決定が家族の方の協力の下でできることをねらいとした実践でした。

講師からは、デンタルフロスを使うなど、歯科衛生士の専門性が生かされていてよいが、プログラム内容においては、既存のものを発展させた、オリジナリティの高いプログラムの開発を期待したいと御指導がありました。(文責: 山口)

第2日 14:35~15:50 (セミナールーム6)

コーディネーター：横山美智江・田邊恵子

学びの交流「ライフスキル教育を実践するに当たって～2日間のワークショップを振り返ろう～」

2日間のワークショップに参加して興味を持ったりやりた
いと思ったりすることは出てくるが、実践に移すためには具
体的にどうしたらよいだろうかという声が参加者の過去の感
想から出されていました。そこで、今回、この課題を少しで
も改善しようと新しい取組として『学びの交流会』を設定し
ました。

まず、各自が興味を持ったテーマ（歯と口の健康、性教育
など）を1つ自分で決め、同じテーマの者同士でグループを
作りました。そして、「テーマを実践するために必要なこと」

をブレインストーミングし、出た意見を分類し実践に向けて時系列に並べてまとめ、発表しました。これにより、現在の自分の立ち位置が明確になり、実践するための新しいアイデアも出てきました。

次に、実践をするに当たって自分の活動を振り返り、今後の取組に見通しがつくように目標設定・意志決定をするようにしました。今回は、K(keep)P(problem)T(try)フレームを使い、個人の振り返りとグループ内での発表や意見交流を行い、実践への意欲がより高まるようにしました。参加者は、自分の実践の見通しがついたことや不足している点などが明確になったことでより実践へ一歩近づく足がかりになったと好評でした。東海支部において初めての試みだったので、今後少しずつ改善していき、定着させていきたいと考えています。(文責：山崎)

